

視 察 調 査 報 告 書

< 経 済 労 働 委 員 会 >

令和3年第8回沖縄県議会（9月定例会閉会中）

令和3年11月12日（金曜日）

沖 縄 県 議 会

経済労働委員会視察調査報告書

視察調査日時

令和3年11月12日 金曜日（1日）

視察調査場所

国頭村（辺土名漁港）、今帰仁村（運天漁港）、本部町（新里漁港）、恩納村（ハマバルビーチ）

視察調査事項

農林水産業及び観光について（軽石問題に関する被害状況等について）

視察調査概要

別紙のとおり

参加委員（7人）

委員長	西 銘 啓史郎 君
副委員長	大 城 憲 幸 君
委員	上 里 善 清 君
〃	山 内 末 子 さん
〃	仲 村 未 央 さん
〃	翁 長 雄 治 君
〃	赤 嶺 昇 君

議会事務局（2人）

議会事務局政務調査課主幹	下 地 広 道
議会事務局政務調査課主査	宮 里 正 樹

別紙（視察調査概要）

1 視察場所：国頭村 辺土名漁港

現場を見ながら随時、県執行部、村役場、漁協関係者等からの説明及び委員からの質疑があった。

【主な説明及び質疑応答の概要】

- 先月中旬くらいから軽石が漂着し始め、災害としての適用可能性があるということで、水産庁のほうに10月21日に災害速報を報告したが、土日の22、23日あたりから大量にどかっと来た。応急工事に着手するというので、週明けの月曜日、水産庁のほうに応急工事をするための協議をし、その日で水産庁からサインをもらえたので、漁港建設協会へ災害協定に基づく要請を行い、28日に施工業者と契約してその週の金曜日29日には辺土名漁港、11月3日からは安田漁港も除去作業に着手した。29日から1日までの4日間で全体の8割は除去し、現在は両漁港ともほぼ回収を終えた。
- 除去の手法としては、港の入り口を仕切り、船揚場の下のほうから重機を使ってすくい出す。取った軽石約800立米については県の管理地に仮置きしているが、安田漁港は漁港内に置いている。
- 現場で一番苦労したのは、除去作業している間にまた入ってくる。漁港の入り口に侵入防止柵を張ったが、最初の1列だけではすき間から入り込んだり波で乗り越えてくるため、2重にしたり水面下にカーテン状に網を垂らすなど、試行錯誤、創意工夫して対応した。
- モズク収穫に使う吸い込み機械があるのでそれも試してみたが、水ばかり吸ってなかなか軽石を吸い込まないため使えなかった。
- 対策本部でも安全性の確認、土木資材や農業での利活用等が検討されているが、仮置きしている軽石をどう処分するかというのが今のところの課題。
- 漁港の入り口を閉め切っているため、船は今出せない状況。風向きによって軽石が入ってくるので、船の操業に当たっても潮の満ち引きを見ながらでないと船も出せない。軽石が浮いてるとやっぱり冷却水として吸い込んでしまい船のエンジントラブルが起きるで、ほぼ1か月一長い人はもう1か月以上は操業に出ていない。
- 漁協の組合員は約70ほど。組合としても具体的な被害額等はまだ計算中で、村と補償の話をしている。
- 先週の金曜日に村の臨時議会が開かれ、過去5年間の10月分の金額を基に補正の金額を決めて、今回の10月の実績との差額について支援していくことを

検討している。

- エンジントラブル等の船の故障については、漁船保険があって比較的分かりやすい。漁業者の減収に係る漁業共済の仕組みは、補填される時期がおおよそ1年後になる部分や、そもそも加入していない方もいる点が課題。加入率は国の金額ベースで90%と言われているが、経営体ベースだといろいろな種類があって一概に言えないが2割から6割程度か。
- 除去作業の予算等としては、3000立米を除去する内容で7000万円ほど。県管理漁港については県災害復旧事業—これは令和3年度の当初予算で組んでいた4億5000万円から対応しており、その後災害査定を受けてから国費分が後から入ってくる。12月には水産庁から査定が来ることになっている。
- 県の対策本部には知事、副知事、政策調整監、関係部長が全部入っていて、その関係部局の関係課の班長クラスは毎日集まって情報共有している。
- 災害協定については、漁港の場合は沖縄県農林水産部と漁港建設協会—建設協会とは別の、船を持っていて漁港の工事をよくやる業者の漁港建設協会というものがある。そこと災害協定を結んでおり、災害があった場合は県から要請すれば対応することになっている。
- 軽石の最新漂流状況やデータの解析、漂流予測については気象庁やJAXA等でいろいろやっているが、現状では飛行機を飛ばせる海保の情報が一番早い。JAXAは衛星画像を解析しているが、6割程度の精度で毎日更新されるわけでもない。

(この後移動して、除去した軽石の仮置き場所を視察した。)

2 視察場所：今帰仁村 運天漁港

現場を見ながら随時、漁協関係者及び村役場からの説明及び委員からの質疑があった。

【主な説明及び質疑応答の概要】

- 経過として、軽石漂着により10月25日の月曜日には多くの漁業者が出漁できない状況となった。同日には、関係者により本漁港内でも軽石の撤去作業を開始した。今はない状態だが、スロープに大量の軽石が打ち上げられた状態で船が下ろせないため人力で撤去作業を始めたが、どうしても人の力では限界があるので、翌26日には重機での軽石撤去作業を開始した。
- 11月1日には、港内係留中の漁船の被害の報告があった。漁に出ずに漁港内

で船を係留しているだけだが、船の仕切っているところに大量の軽石が混入してきたため吸い込んでしまったようである。

- 今現在も軽石が沖合で漂流している状況は目視で確認できるが、生活がかかっているためやむを得ず出漁した結果、エンジンが止まる被害が発生している。今帰仁漁協で営まれている遠洋漁業、沿岸漁業、養殖漁業等の全てにおいて軽石の影響を受けている。漁協の組合員としては112名いる。
- 今帰仁村としてもオイルフェンス等を設置して侵入を防止したかったが、どうしても予算措置等が間に合わず、昨日から、漁協で浮棧橋と農業用の網をセットして仮設のフェンスとして設置しているところ。今、フェンスの真ん中を開けてあるので船が通っていったが、外から軽石が近づいて来るのを見計らって真ん中を閉めて軽石が入ってこないようにする。設置後の効果等も検証しながら工夫したい。現在、水産庁等と連携して災害復旧工事の準備を進めている。
- 軽石の漁港内への侵入状況として、日によって違うが北西の風が吹くと、物の1時間半くらいで漁港内ほぼ全部軽石で埋め尽くされてしまう。
- 具体的な被害額や影響額は、まだ把握できていない。
- 現在モズクは陸上のほうにあって、本来であればこれから本格的に沖に出していくところだが、出し切れていない。出したとしても日照不足で成長しないことも考えられる。

3 視察場所：本部町 新里漁港

現場を見ながら随時、村役場及び漁協関係者からの説明及び委員からの質疑があった。

【主な説明及び質疑応答の概要】

- 漁業者の生活もかかっているため優先的に漁港のほうを撤去している。先日、地域住民100名くらいで20トンくらいの軽石を撤去したが、その後やはりこのような状態に残ってしまっていて、いたちごっこの状態。今はフェンスのおかげで入ってこない状況でストップしているが、幾分かはフェンスを越えて入ってくるものもある。
- 現在のフェンスは、漁港を利用している建設業者がボランティアで設置してくれた。下に2メートルほどのスカートがついているが、波が高いと越えてくる。
- 漂着している軽石は相当な厚さで水面上にたまっていると思われ、本物の大

きな石を投げ入れてみたら、軽石の上をコンコンコンと転がるぐらいである。最近では砕けて粒子が細かくなってきているため、以前みたいには硬くはなくどろどろの状態。それはそれで漁船への被害が心配である。

- 具体的な被害額等は把握できていない。
- この漁港から避難した船も、行った先の漁港のほうにも軽石が流れてきているため、結局は動けない。養殖も含めると本部の組合員数自体は133名。プラス、マグロ養殖業に従事している方も10名程度いるので全体では150名ぐらい。
- 港内のプレハブで海ブドウの養殖をやっており、フィルターをつけて港内から海水を取っているが、やはり軽石がかかってくるため今後の養殖にも影響がでそうである。
- 風向きにより軽石が流れ着いたりまた戻ってきたりの繰り返し。南風が吹いたらなくなるが、北寄りの風だと寄ってくる状況である。
- 撤去については、予算も限られ市町村にできる範囲の限界があり、大規模にはなかなか進まないところだが、今、毎週のようにボランティアの申込みがあるのでその方々に手作業でお願いしている。
- 除去した軽石は、飛散したら困るのでトン袋に詰めて町有地の一角に一時的に保管している。
- 休漁に伴う補償等については、今後漁協とも話し合いながら支援の在り方を検討していく。
- 隣の海岸ビーチにも相当押し寄せている。観光客や子供が間違っ入ったりしないか心配なので、出入り禁止のような措置も実施しないといけないかとも思う。

4 視察場所：恩納村

現場を見ながら随時、恩納村長、役場職員、隣接するリゾートホテル業者、マリンレジャー関係者からの説明及び委員からの質疑があった。

【主な説明及び質疑応答の概要】

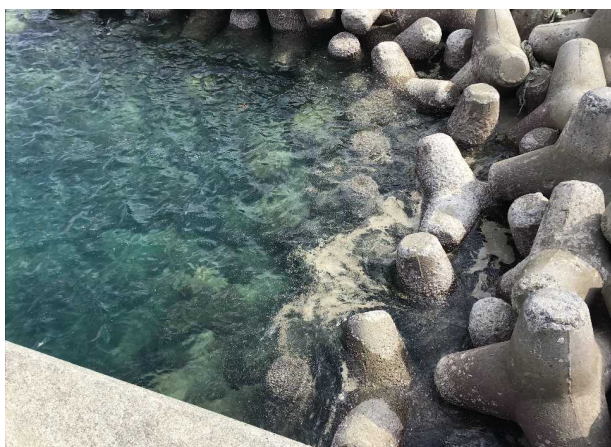
- 北風が吹いて最近から御覧のとおりこのように大変な状態になっている。特に恩納村の北側が厳しい状態になっている。恩納村も漁業一特に海ブドウやモズクなど網張の時期であるが、こういう状況で港も閉鎖になっしまい、今船も出せない状況。
- ホテルが大変ダメージを受けていて、これまで恩納村のホテルの稼働率が

40%くらいあったが、本土のエージェントのほうでは、恩納村に行っても海はもう使えないだろう、マリンレジャーもダイビングもできないだろうという風評被害が出てしまって、コロナとダブルパンチのような形になっており、大変厳しい状況が続いている。このような一般海浜についても、どうか補助メニューつけて支援をお願いしたい。

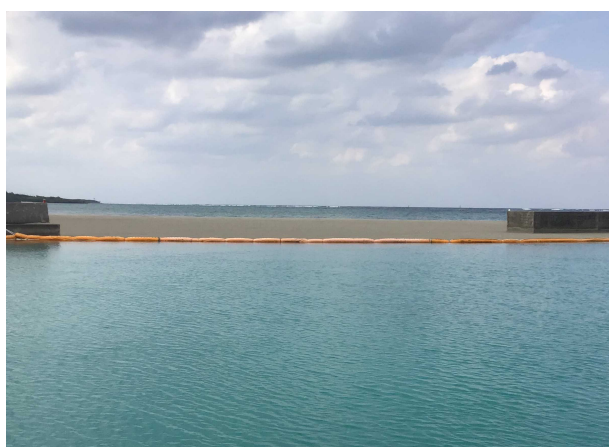
- 海岸線が42キロあり、近隣のホテルの皆さんは自前で自分たちの範囲を人海戦術で対応したり、重機を使って自分たちでやっている状況である。これはもう商売に関わってくるので、そういったみんな頑張っている人たちの気持ちも酌んでもらって、早め早めにやってほしい。村も予備費などを使ってすぐ行動に移してやっているところもあるが、県と一緒に進めていきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。
- この一般のビーチ海浜というのは基本的に村が管理している。村としてはトン袋等を配って各ビーチの事業者の皆さんと協力しながらそれにためてもらって、村が回収して置き場所に持って行くという対応をしている。
- （マリンレジャー業者）修学旅行や観光客の落ち込みについて、今帰仁辺りに軽石が漂着していたときは向こうのホテルではマリンもできないから、代わりにこっちでやったこともあるが、今は同じ状況になってしまった。被害というのは大きい。その被害プラスこれを片づけるというのは一業者として重機も自分たちで借りて、さらに人もとなると、全然無理である。今、村がどうか予算がどうか言っているが、僕たちはコロナでさんざん苦しんできて、借金も4倍くらいになっており、返せないくらい負っている。今やっとここにきて、村も一緒になってやろうとしている中で、今議員が動かなかったらどうするのか。村長も一生懸命やろうとしており、皆さんが動こうとするのも大変なのは分かるが、今こういうことを言っている場合ではなく、すぐにでもやらないといけない。今すぐどうにかしよう、予算などの措置は後からにしよう、それほどの度胸と責任を持ってやってくれないと困る。僕だけではなくホテルもそう、漁師もそうである。日本のことを考えるのであったら、ここから本土に流れていって養殖に被害が出る前に、沖縄で食い止めてやろうという気持ちがないと、絶対無理である。
- （ホテル関係者）現状を見ていただいたとおり、正直一事業所という形ではもうマンパワーもないし、費用についても非常に厳しい状態が続いている。そういうことなので、何とか皆さんで早め早めに行動していただいて方向性をお示しいただけたらと思うので、ぜひよろしくをお願いしたい。

経済労働委員会 令和3年11月12日

軽石漂着現場視察 辺土名漁港



経済労働委員会 令和3年11月12日
軽石漂着現場視察 運天漁港・新里漁港



経済労働委員会 令和3年11月12日
軽石漂着現場視察 ビーチ

